

## 砂防の碑「<sup>もくしてゆう</sup>黙而雄」

「黙而雄」とは、「黙々として与えられた仕事を果たす」という意味で、砂防事業関係者のこころ意気を表現したものです。



▲(故)倉上靖

砂防の碑「黙而雄」は、目立たない砂防現場で事業の重要性を心に刻みながら黙々と仕事に携わった人々の姿を映すものであります。

この碑文は、倉上靖（元最上川水系砂防工事事務所工務課長）が昭和27年11月に揮毫し、「瀬場堰堤」石碑の背面に刻んだものです。

当時は堰堤が完成しても堰堤本体に銘板を取り付けることはなく、この碑が瀬場堰堤の名前を示すものとなり、これまでの砂防事業の進展をずっと見守り続けてきた石碑です。



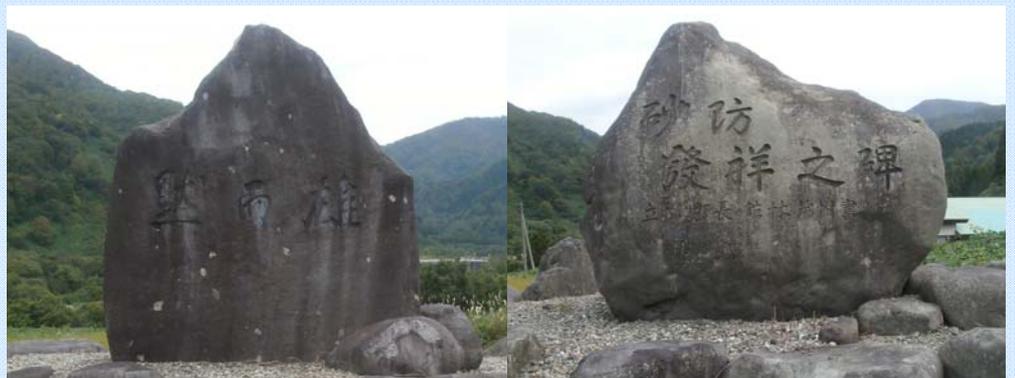
▲元々の「黙而雄」石碑の表面には「瀬場堰堤」と刻まれている(場所:瀬場砂防堰堤左岸)



▲瀬場砂防堰堤(昭和28年12月完成)  
高さ6m、長さ193.3m、貯砂量258,500m<sup>3</sup>

昭和初期、最上川に流入する70%の土砂を立谷沢川が供給していると言われ、河床の上昇による洪水から庄内地域の水田を守り、酒田港の航路確保のため、立谷沢川からの流出土砂の調節が急務であり、昭和12年に最上川水系直轄砂防事業が始まりました。山形県内最初の砂防事業であったため「砂防発祥之碑」が昭和62年に建てられました。

直轄砂防事業70周年記念の平成19年に、「黙而雄」の精神を広く知ってほしいという思いから、新しい「黙而雄」石碑が砂防・河川事業に携わった新庄河川事務所の元職員の新庄会により、人が多く集まる玉川砂防公園内に建てられました。



▲新しい「黙而雄」石碑、隣が「砂防発祥之碑」(場所:玉川砂防公園内)

■現在まで立谷沢川では、砂防堰堤等46基・流路工約21kmが整備され、流域住民の暮らしを守り、豊かな自然環境・景観と溪流の利用に配慮した砂防事業を推進しています。

◆ 昭和初期の工事現場の写真紹介 ◆  
 ～砂防資料館にある貴重な写真を、ぜひ見に来てください～



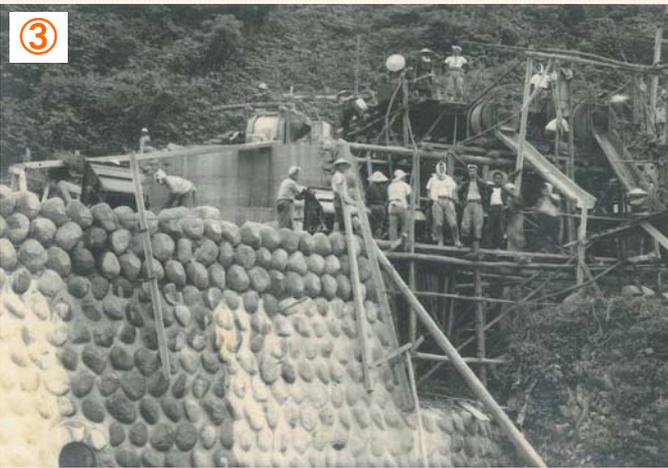
①

▲昭和13年 濁沢第1砂防堰堤掘削  
 バックホウなどの重機がなかった時代  
 すべてが人力での作業



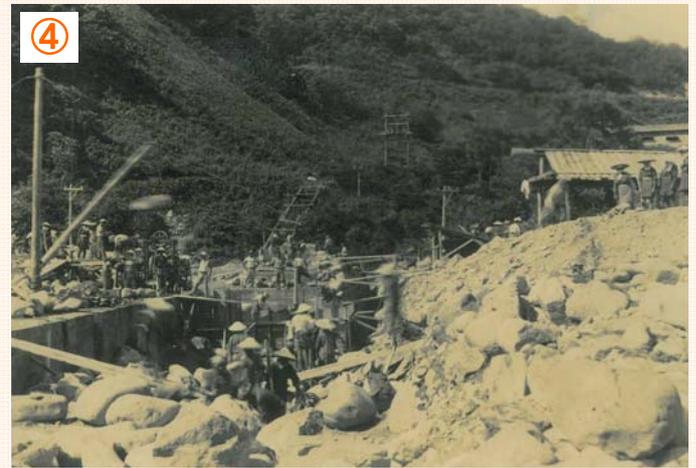
②

▲昭和16年 立谷沢砂防工場(本沢濁沢筋)  
 6～11月まで工事を行い、冬期間執務する  
 仮事務所は酒田市に設けられていた



③

▲昭和25年 六瀬砂防堰堤の施工状況  
 ミキサー車2台を使ってプラント作業



④

▲昭和24～27年 六瀬砂防堰堤の施工状況  
 デッキクレーンを使っでの作業

◆ 1 番 最 初 に 建 設 さ れ た 濁 沢 第 1 砂 防 堰 堤 ◆



⑤平成19年7月

濁沢川



⑥平成23年5月24日(崩壊直後)

濁沢第1砂防堰堤が  
 崩壊土砂に埋もれて  
 確認できない

濁沢川

濁沢第1砂防堰堤は、昭和12年に直轄砂防  
 最初の砂防堰堤として着手され14年に完成しま  
 した(写真①)。建設後73年を経て平成23  
 年5月濁沢川池ノ台深層崩壊時には、およそ8  
 mの土砂に埋もれていました。その後、流水に  
 より河床が低下して姿をあらわし、一部水通部  
 が欠けていますが、多くの土砂を受け止め役割  
 を果たしました。



⑦平成24年10月

濁沢第1砂防堰堤

濁沢川

◆六洩砂防堰堤上流において土砂災害軽減のための工事を行っております◆  
 ～立谷沢川流域立谷沢川整備工事 神室工業(株)～



六洩砂防えん堤

大規模な土砂流出が発生した際に、既存の砂防堰堤で土石流を受け止めるスペースを確保するために、現在堆積している土砂を取り除く工事を行っております。除石した土砂は、南部山村広場と新庄古口道路建設のため升形IC下部工工事において、地域づくりのため有効活用しております。



▲この一帯が堆積土砂で除石作業中



土砂をダンプに積み込んで運搬



「升形IC下部工工事」

土砂運搬時、大型ダンプが立谷沢川沿いを走行して新庄市方面へ多数往復しております。

運搬は12月下旬頃までで、マナーを守り走行するよう努めておりますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いたします。

◆立谷沢地区振興会の活動◆

【砂防事業研修会】

10月23日、北月山荘において、会員16名が参加し、花岡事務所長が講師となり研修会を行いました。濁沢大崩壊や肘折地すべりの特徴、肘折における県と連携した緊急対策などを紹介し、事務所職員と意見交換を行いました。



スクリーンの写真を見ながらの研修会

講師：花岡事務所長

振興会メンバー



【龍神観音供養祭】

10月23日、北月山龍神観音堂前において、振興会主催により、原田町長はじめ関係者が参加して、土砂災害安全祈願・地域住民の幸福・五穀豊穡を祈願しました。

【要望活動】 本省での意見交換会→

振興会は独自に要望活動を毎年行っています。今年は11月9日に新庄河川事務所と東北地方整備局本局（仙台市）を訪れ、19日に国土交通省本省（東京都千代田区）を訪れ、河川局では足立河川局長・南砂防部長と、立谷沢川直轄砂防事業の推進について意見交換を行いました。



原田庄内町長

齋藤会長

水管理国土保全局 山崎次長

◆北楯大堰開削400年祭開催◆

11月1日、北館神社において地元農業者を中心に約320名が参列して行われました。

北楯大堰は、慶長6年（1601年）に北館大学助利長が狩川城主として赴き、この地を豊かにしたいと立谷沢川から用水を引くため開削されました。現在、農業の発展だけでなく、豊かな自然を育み、文化や美しい景観など、大きな恵みをもたらしています。



## ◆ 庄内地区安全パトロール開催 ◆

11月13日、新庄河川事務所事故防止対策委員会主催のもと、建設業者23名、庄内労働基準監督署、事務所・出張所12名が、工事現場や現場事務所を点検して、改善策などを全員で検討しました。



「科沢砂防堰堤工事現場」点検

スクリーンの現場写真を見ながら検討会を行っている (写真→)



### 【評価された安全対策の事例】

クレーンオペレーター誘導の際、ハンズフリーの同時通話型無線機を使用して、手合図より安全に施工できるようになりました。



鈴木安全衛生課長から最近の労働災害防止策に関する講話、当委員会から最近の事故事例に基づく留意点を説明しました。

今後より一層安全な工事執行に積極的に努めてまいります！

## ◆ 平成24年度 土地・建設産業局長賞受賞！おめでとうございます ◆

建設産業人材確保・育成推進協議会主催の建設業に関する募集作文で、立谷沢川流域での工事経験をもとにした「地図に無い仕事」が表彰され、受賞者の喜びの声を紹介します。



### 升川建設(株) 庄司 康人 さん

(平成23年 本沢第二砂防堰堤改築工事 現場代理人)

この度、「私たちの主張」に関して応募した作文が荣誉ある賞を頂き、驚くと共にとてもうれしい気持ちでいっぱいです。

昨年、立谷沢川の本沢で砂防堰堤工事を経験させて頂き、あまり人の目にふれず、長年に渡りコツコツと進められてきた砂防工事について、少しでも他の人に紹介し理解してもらえたらと思い、雑文ながら応募させて頂きました。今後も無事に工事が進んでいくことを願っております。

## ◆ 平成24年度業績表彰受賞 ◆ 「濁沢川池ノ台地すべりへの緊急対応について」



▲徳山東北地方整備局長(左)から石渡出張所長(右)に表彰状授与

11月5日、表彰式が行われ、石渡出張所長が当事務所を代表して授与されました。

昨年5月に立谷沢川支流濁沢川で発生した大規模な深層崩壊及び土砂流出に対し、職員一丸となって、短期間で、崩壊の実態把握と土砂流出に対する緊急対策を遂行し、地元住民の安全と下流域の取水を保全した功績が表彰されました。



【濁沢川池ノ台地すべり箇所】

## 「さきちゃんだより」

### 砂防の「さ」の由来 希望の「き」

をとり、親しみが持てるよう「さきちゃんだより」とネーミングしました！



## 《立谷沢川砂防出張所／砂防資料館》

〒999-6601  
東田川郡庄内町狩川字堅田20-23  
TEL 0234-56-2050  
FAX 0234-56-2081

<http://www.thr.mlit.go.jp/shinjiyou>  
立谷沢川砂防出張所ページをご覧ください

～砂防資料館～  
開館日：※土日・祝日は閉館しております。  
※ご利用の際は事前にご予約ください。

